



渋谷区立原宿外苑中学校

令和5年1月号（1月6日発行）

# 学校だより



<https://shibuya.schoolweb.ne.jp/haragaij>

各新聞社の元日の社説から「2023年の学校教育」を展望する

校長 駒崎 彰一

年末から3年生の高校入試に向けた面接練習をする中で、全員に「新聞」についての質問をしています。8割を超える生徒が「新聞を読まない、ニュースはネットやテレビで・・・」という回答がありました。

一般社団法人「日本新聞協会」によると、新聞発行部数は、新聞販売収入とあわせ急激に減少を続けている状況にあります。（参考データ <https://www.pressnet.or.jp/data/circulation/circulation01.php>） 昨年の1世帯あたりの購読部数が「0.53」となり、データ上では、概ね半分の世帯で新聞を購読していないこととなります。特に若者世代の「新聞を買わない・読まない・評価しない」ことが顕著となっています。インターネットがスマホによって個人にまで普及した現在では「情報はタダ（0円）」で入手できるようになり、確実に「新聞離れ」が今後も進行していくことが予想されます。

インターネットは、多種多様な情報が溢れており「ノイズ過多」と言われています。このような状況下では、特定の情報だけが大きく見え、別の情報が見えなくなる「プリズム効果」があり、自分の考えに近いものにばかりフォーカスあたり、逆に関心がない分野については「視野」が狭くなってしまいう傾向があるそうです。また、最近では過去の閲覧履歴や検索履歴に合わせて、画面に表示される内容が変わってくる仕組みになっており、入手する情報が「偏る」危険性が高いと言われています。

このように捉えると、インターネット上の情報の選別には、情報を見極める知識とスキルが問われるため、インターネットによる情報収集は「上級者のメディア」とであると考えられます。その点、新聞は世の中を知るための「基本ツール」と言われています。一面から順にめくっていけば、政治、経済、国際情勢、文化やスポーツ、国内・地域情報と世の中の動き全体を短時間で俯瞰できるつくりになっています。この「一覧性」は新聞の最大のメリットです。また、単にニュースを配信する「NEWS PAPER」としての「事実を知る」機能だけではなく、社説やコラムを通して様々な「見方・考え方」を知る「OPINION PAPER」としての機能があります。（このため新聞は複数紙読むと良いそうです。）このように捉えると「若者」はインターネットより新聞で「情報収集」する力を鍛える必要があるのではないのでしょうか。

15年程前に上司（当時K区教育長）から、新聞には「様々な課題を乗り越えるヒントがある」と読むことを勧められるとともに、特に、元日の全国5紙の「社説」について、「深読み」することを勧められ、それ以来、年始の恒例の取組となっています。

「社説」は、日々生起する政治、経済、社会などの時事問題について、各新聞社の主張や考えを各社の責任において掲載するもので、日本の「今」の「見方・考え方」をタイムリーに捉えるものです。新年元日、各新聞社の「社説」を深読みすることで、2023年の「学校教育」について考えていきたいと思ひます。

はじめに関東地方のブロック紙ではありますが、東京新聞には『年のはじめに考える 我らに「視点」を与えよ』と題して、米国の人気歌手アリアナ・グランデさんの「pov」という曲について取り上げ、サビに「あなたの視点で自分を見たい」とある通り、曲名の「Point of View」つまり「視点」ということから以下のように論を展開しています。

「米メジャーの二刀流・大谷翔平選手。彼は超一流打者の pov で自分の投球を見、超一流投手の pov で自分の打撃を見られる唯一無二の存在ではないのか、と。視点を一つしか持たぬ他の超一流プレーヤーとの画然たる差異。素人考えですが、彼の二刀流の本質は、そこにあるようにも思えます。」

ダイバーシティ（多様性）が浸透して、様々な角度（立場）の「Point of View」から物事を考えるチカラが求められる時代になってきています。これまで本校でも取組を進めてきた通り、学校教育でも多様な他者（教師やあらゆる専門家そして生徒間）の対話を深めることで「Point of View」を広げていく取組を展開していきたいと思ひます。

朝日新聞には『空爆と警報の街から 戦争を止める英知いまこそ』と題して、戦地ウクライナのレポートの後に次のようにまとめています。

「これだけ科学文明が発達し、国境を越えた人の往来や経済のグローバル化が進んだ21世紀の時代にあって、戦争という蛮行を止める策を、人類がなお持ち得ていないことを。一人の強権的な指導者の専横を抑制する有効な枠組みがないことを。（中略）一方、欧州の東の地域で起きた戦争が、金融、食料、エネルギーの連鎖構造を通して、世界中の人にも痛

みをもたらすことも、学んだ。眼前で起きている戦争を一刻も早く止めなければならない。そしてそれと同時に、戦争を未然に防ぐ確かな手立てを今のうちから構想する必要がある。知力を尽くした先人たちにない、人類の将来を見据え、英知を結集する年としたい。」

また、読売新聞では『平和な世界構築へ先頭に立て 防衛、外交、道義の力を高めよう』と題してボリュームのある社説となっています。最初に「独裁者の暴走を防げ」と題し、「自由な民主的社會こそが平和を守る。自由と平和の尊さを改めてかみしめたい。」として民主主義についての見直しから論を進めています。次に「備える力が必要だ」として「軍事技術の面でも、脅威は格段に高まった。これまでの、迎撃本位の防衛体制では対応しきれない。日本を取り巻く安全保障の環境が一変したのだ。政府が反撃能力の保有など、防衛政策の大転換となる新しい安全保障政策を決定したのは当然だ。装備、施設、指揮系統など、必要な態勢を構築し、日米同盟関係が確実に機能するよう、準備を急がなければならない。」とまとめています。そして「国際世論は無力でない」「途上国とのパイプ役に」と論を広げ、このためには「国力」が必要だとして、最後に「政治の信頼が国力の礎」として「さまざまな難題で一つ一つ、着実に実績をあげていくことが必要だ。」としています。

さらに、産経新聞では、『国民を守る日本へ進もう』と題して、「日本が努力しなかったら、戦後初めて戦争を仕掛けられるかもしれない。戦争したくないから抑止力を高めようとしているんですよ」と産経の論説委員長の説明から始まっています。日本が国民を守る国になるには乗り越えるべき壁は多くあるとして、以下の2点について例を挙げ主張しています。「反撃能力保有をめぐり一部野党や多くのメディアは、相手国が発射する前の反撃能力行使は先制攻撃になる恐れや歯止めを専ら論じている。理由なく相手を叩く先制攻撃が国際法上不可なのは自衛隊も先刻承知。反撃能力の円滑な導入を論じてほしい。また、北朝鮮に拉致されたり、それに似た状況に置かれた国民を、自衛隊は海外で救出することが許されていない。憲法9条の解釈で海外での武力行使が禁じられている。敵対的な国で日本国民が非道な目にあっている場所が分かって、救出作戦の選択を端から放棄しているのが戦後日本だ。」

ロシアによるウクライナ侵攻など、国際情勢が混迷を深めているなか、2023年の日本の動向について、様々な「Point of View」からの「見方・考え方」が展開されています。単にニュースを眺め「事実を知る」だけでなく「深読み」をして、自分なりの「Point of View」を探る必要があるのではないのでしょうか。

毎日新聞では『危機下の民主主義 再生へ市民の力を集めたい』と題して、「市民の力」について論じています。民主主義論が専門の立命館大の山本圭准教授は「市民は受け身では、役割が縮小される。市民の力を生かし、実効性ある民主主義をいかに作り上げるかが問われている。」と「市民の力」の重要性を指摘しています。また、19世紀の仏思想家トクビルは「自由な人民の力が住まうのは、地域共同体の中なのである」という考えを紹介し、「市民の力」を集結することが比較的容易な地方自治の重要性を訴えています。どうすれば政治を立て直し、民主主義を再生することができるか。足元から考える年にしたいと最後にまとめています。

鍛えた「Point of View」を活かして、皆で協調し、どのように「市民の力」としていくのか・・・。「受け身」ではなく「主体的に考え行動するチカラ」が求められています。中学生がこのようなチカラをどのように獲得していくことが良いのか？今年も試行錯誤を続けていきたいと思えます。

最後に日本経済新聞では、『分断を越える一歩を踏み出そう』と題して、「2つの罍のリスク」と小題を設定しています。現在、世界は以下の2つの罍に陥りつつあるのではないかと論を進めています。

1つは「ツキディデスの罍」ハーバード大学のグレアム・アリソン教授が提唱した概念で、「これまでの歴史を振り返ると、覇権国が台頭してくる新興国と衝突して戦争につながる事例が多い」という考え方。そして、もう1つは「キンドルバーガーの罍」という経済学者たちの分析で「1930年代の大恐慌と第二次世界大戦につながったのは、英国から米国への覇権移行期の大国の指導力不在であった」との考え方。

この2つの罍を回避するには、「大国間の対立を緩和して、国際協調を立て直す必要がある」、日本でも岸田政権発足時に掲げた「分断から協調へ」の真価が問われる年になるとしています。「難しい問題を解きほぐし、前に一歩踏み出す」今年、世界に求められる課題であるとまとめています。

分断の嵐が世界を襲い、グローバリゼーションは停滞。それでも外とのつながりに豊かさを求める人々の営みは途切れない。試練の先の「Next World」。世界をつなぐのはイデオロギー対立を超えたフェアネス（公正さ）と元日の日本経済新聞は特集を組んでいます。

これからの時代、「難しい問題を解きほぐし、前に一歩踏み出す」ためには、「競争」と「協調」が必要であると言われていきます。「競争する領域」と「協調する領域」の整理をフェアネスにすることが必要になってくると感じています。試練の先の「Next World」に向けて、今年も試行錯誤しながら学校の教育活動を展開していきます。

## ジェンダーレス標準服(制服)を導入していきます

9月の学校説明会で「2022秋にはWebサイトに公開」と説明していましたが・・・12月になってしまいました。以下のように導入していきます！第3の標準服(制服)として選択が可能です！導入の詳細については、本校Webサイトより「校長室だより第67号」をご確認ください。

<https://shibuya.schoolweb.ne.jp/weblog/files/1320122/doc/69591/429787.pdf>



- ・生地はセーラー服のスカートと同じものです。
- ・ジェンダーレス標準服(制服)になりますので男女問わず選択が可能です。
- ・セーラー服にズボン、この上着にスカート等、自由に組合せができると思います。
- ・上着は、センターベントの設定になります。写真は、仕付け糸で固定されています

- 価格はセーラー服より10%程度高くなる予定です。決定次第お知らせします。(1月中旬に決定の予定です)
- 令和5年度新入生向けには、新入生説明会 2月18日(土)より注文を受け付けます。(後日、連絡いたします。) 希望者数にもよりますが、お渡し(納入)は夏休み以降になってしまう予定です。  
この間は、学ラン・セーラー服を購入していただくか、リサイクル制服を利用していただくことになります。  
日常の学校生活は体育着で構いませんが入学式での着用が必要になります。



生徒会を中心とした「交通安全」の取組

## 原宿警察署長より感謝状をいただきました！



感謝状を受け取る前期生徒会本部役員

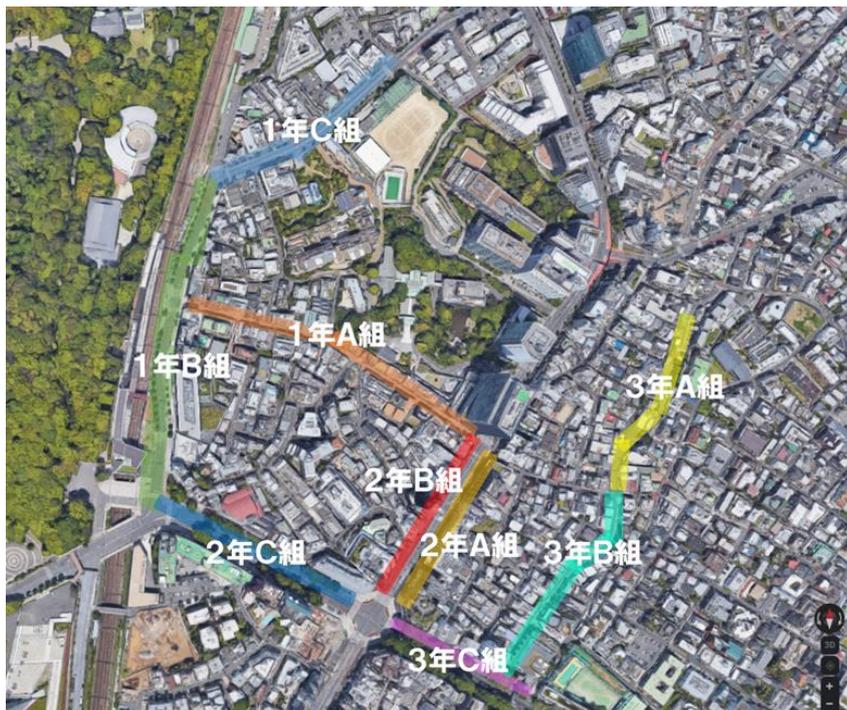
9月の交通安全運動の期間中、生徒会本部役員を中心に学校付近の横断歩道にて見守り活動を行いました。これらの取組から、原宿警察・原宿交通安全会より感謝状をいただきました。今後も取組を発展させていきたいとします。



「きれいな渋谷プロジェクト」コラボ企画

## HARAJUKU ローラー大作戦!!!

12月10日(土)土曜授業の1校時に全校で「ゴミ拾いプロジェクト」を展開しました。きれいな原宿を目指してトングとゴミ袋で原宿駅周辺の「ポイ捨てゴミ」を一掃しようというプロジェクトです。「きれいな渋谷プロジェクト」(<https://kireinashibuya.hp.peraichi.com/>)とコラボして生徒会による企画で実現しました。原宿駅周辺、竹下通り周辺、表参道周辺のごみ拾いを行い、同時にごみ箱のある場所を調査し「原宿ごみ箱マップ」を作ろう!(最終的にはマップの URL を QR コードのシールにして、ごみの出る店に配りポイ捨て「0」を目指したい)と考えています。



多くのゴミを回収しました!

燃える・燃えないゴミ=90ℓ ゴミ袋×9袋

空き缶・ペットボトル =90ℓ ゴミ袋×2袋

ビニール傘等多数

## 「越前和紙」紙すき体験

グローバル人材育成推進校として日本の伝統文化を知るために企画しました「越前和紙」紙すき体験。「IMADATE ART FIELD」(今立現代美術紙展) 実行委員長の 増田 頼保 氏をゲスト・ティチャーとして迎え、単なる紙すきだけではなく、様々な素材を組み合わせ「イマジネーション」をふくらませる「アートな紙すき」となりました。



## 渋谷区立中学校「生徒会交流会」

12月26日(月)渋谷区役所 14 階大集会室にて区内 8 校の生徒会本部役員による交流会が開催されました。「未来の学校(未来の生徒会)」をテーマに「各校の生徒会活動の紹介」や意見交換会「Shibuya 生徒会ハッカソン 2022」が行われました。本校の生徒会役員は、参加するだけでなく全体の運営を担当しました。



## 表彰

明るい選挙啓発ポスターコンクール 佳作 石津 一樹 佐藤 埜乃

東京都読書感想文コンクール 佳作 小川 菜々子 清水 嶺衣

「しゅばやおすめの本50」2022読書コンクール

金賞 児玉 にと

銀賞 今村 晴留 玉井 百花 石野 愛佳 佐々木 李咲 山本二瑚 山崎 玲花 土信田 紗羅

佳作 向井 健 津村 美結 西山 未杜

バスケットボール部 渋谷区新人大会 女子 第2位 (個人賞:大門 彩葉)

男子 第2位 (個人賞:溝口 玲央)

陸上競技部 北渋マイル 優勝 キング レイ(中2男子の部) 2位 工藤 直生(中1男子の部)

3位 地子 桔平(中1男子の部) 2位 坂本 愛(中1女子の部)

第51回江東区ロードレース・第7回江東区シニアロードレース大会

中学1年女子1000m 第5位 坂本 愛 第6位 増本 香穂

		日	月	火	水	木	金	土	
今月の 予定		1	2	3	4	5	6	7	
		元日	振替休日					冬季休業日終	
		8	9	10	11	12	13	14	
			成人の日	全校朝礼 安全指導日	職員会議・研修会				
	1 月		15	16	17	18	19	20	21
					渋谷区防災点検の日 避難訓練	職員会議・研 修会	なみき祭(展示) 準備	なみき祭(展示)	なみき祭(展示) 土曜授業 CS
			22	23	24	25	26	27	28
						スキー教室始 (2)		スキー教室終 (2)	
		29	30	31					
			生徒朝礼						

		日	月	火	水	木	金	土	
来月の 予定					1	2	3	4	
					専門委員会	校外学習(1)	研修会 午前授業		
		5	6	7	8	9	10	11	
			中央委員会		職員会議・研修会			建国記念日	
	2 月		12	13	14	15	16	17	18
				専門委員会	安全指導日	渋中研全体会			土曜授業 学校公開日 CS 新入生保護者説明会
			19	20	21	22	23	24	25
					後期期末始(12)	後期期末始(3)	天皇誕生日	後期期末終	
		26	27	28					
			生徒朝礼 ピアノ演奏会						